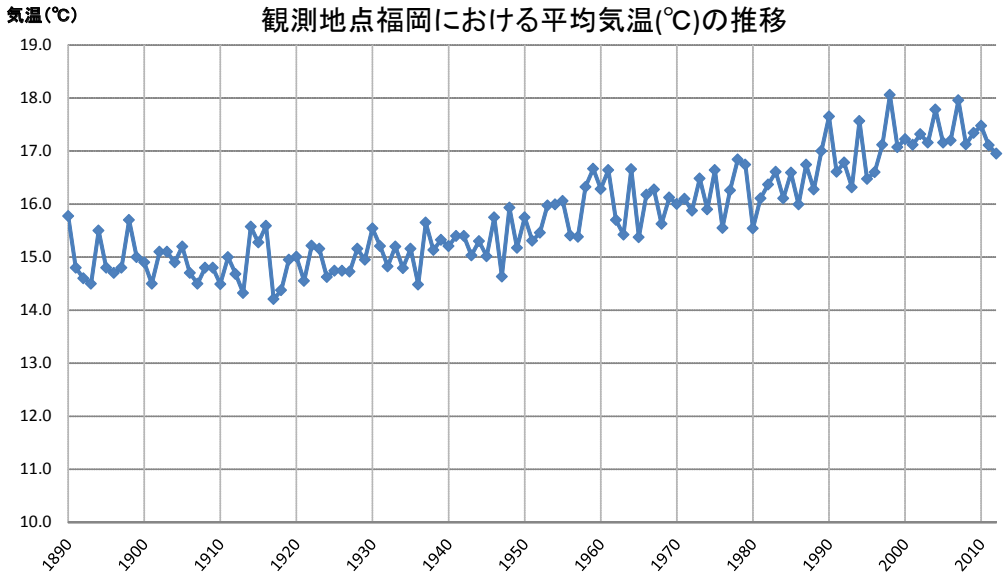
よかネット
YOKANET
No. 112 2013. 10
（株）よかネット

もくじ

NETWORK
平成 25 年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業の取組紹介～組織づくりから活動展開に向けて～ ----2
公共施設マネジメントセミナー報告 ----4
皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介 ----6
見・聞・食
女性だけで立ち上げた農業法人組合モア・ハウス～しめじとアスパラ生産～ ----8
平成筑豊鉄道『田川ホルモン鍋列車』出発～ B-1 グランプリ初の公認鉄道企画～ ----11
近況
北九州でセルフリノベーションをやってみた ----12
国際リニアコライダー（ILC）の誘致活動その後 ----13
公益財団法人九州運輸振興センター主催第 48 回九州運輸コロキアム「発想の転換が公共交通再生の道～いすみ鉄道の再生を通じて～」に参加しました -- 14
TOM ネットまちづくりセミナー第 2 講座『空きビル再生の取り組み』講師 ダイスプロジェクト 橋爪代表 ----16
偉大なる空芯菜～志賀島の農業体験農園・百姓園にて ----17
今年はトマトが豊作でした ----18

●着実に進む温暖化－やっぱり暑くなっている



今年の夏も暑かった。福岡管区気象台によれば、平成 25 年 8 月の九州・山口県では、多くの気象観測地点で 8 月の高温の記録を更新したそうだ。福岡と鹿児島は月平均気温 30. 0℃と、大阪と並び全国第 1 位である。

どれくらい、暑くなったのだろうか。気象庁より入手可能な 1890 年（明治 23 年）から 2012 年（平成 24 年）までの観測地点福岡における月平均気温をもとに、年平均気温の推移を追った。

年によって上下があるものの、平均してみれば 1900 ～ 1910 年代 14. 9℃だったのが、2000 ～ 2010 年代には 17. 3℃と 2. 4℃上昇しており、着実に温かくなっている。

この暑さとともに、ゲリラ豪雨と称される大雨も増えているように思う。全国的な話となるが、気象庁によれば時間降水量 50㎜、80㎜ 以上の短時間強雨の発生回数は増加傾向にあるという※。高温もさることながら、豪雨にも気を付けたい。

※気象庁ＨＰ「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」（アクセス日：20130918http://www. jma. go. jp/jma/kishou/info/heavyraintrend. html）

平成 25 年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業の取組紹介
～組織づくりから活動展開に向けて～

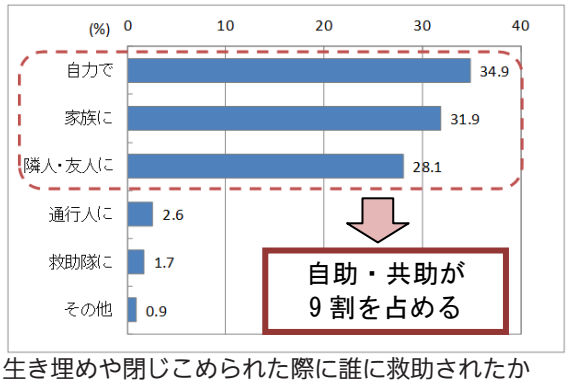
山﨑　裕行

皆さんは、自主防災組織という言葉を聞いたことがあるだろうか。日本で初めて使われたのは、昭和 34 年の伊勢湾台風の被害を契機として昭和 36 年に公布された災害対策基本法に基づく防災基本計画の中であった。これ以降、公的な文章、計画では使われることになるのだが、我々にとっては、つい最近まで馴染みの薄い言葉だったと思う。

この言葉が注目されたのは、平成 7 年の阪神淡路大震災以降と言われている。この大震災において、生き埋めや閉じ込められた際に、誰に救助されたのかを調べたところ、「自力で」、「家族に」、「隣人・友人に」という「自助・共助（地域住民相互による援助）」によるとの回答が実に 9 割を占めた。「救助隊に」という「公助（公共機関による救助・支援）」の回答は 1 割にも満たなかった。そういうこともあって、共助のための中核の組織として自主防災組織が注目されるようになり、阪神淡路大震災後の災害対策基本法の改正でも、「自主防災組織の育成」が行政の責務の 1 つとして明記され、各地で自主防災組織設立に向けた取組が展開されている。

●平成 25 年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業とは？

今回、弊社が福岡県の委託を受けて企画・運営している「平成 25 年度福岡県自主防災組織設立促進モデル事業」（以下、モデル事業）は、その名が示す通り地域（概ね行政区単位）において自主防災組織の設立促進を目的としている。もう少し細かく言えば、1 点目に、自主防災組織が未設立の地域等において、災害時に地域を自分たちで守るための自主防災組織を設立する、2 点目にモデル地区において、地域防災ワークショップを実施し、当該地区をモデルとして他地区への設立促進を図る、3 点目に持続可能な自主防災組織活動に向け、自主防災組織に求められる役割や活動などを理解したリーダー育成を図る、という 3 点を目的としている。この目的を果たすために、モデル事業では、「福岡県災害図上訓練指導員養成講座」と「地域防災ワークショップ」という 2 つの取組を行っている。



生き埋めや閉じこめられた際に誰に救助されたか
出典：日本火災学会「1995 年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

特に、地域防災ワークショップは、福岡県内 10 市町村でモデル地区を 1 地区選定し、計 3 回の防災ワークショップを開催することになっている。既に福岡県災害図上訓練養成講座は終了し、現在、各モデル地区で地域防災ワークショップを進めている。9 月末までには 10 地区中 6 地区で第 1 回目が終わる。既に第 2 回目まで終わったところもある。

以下、これまでの取組を踏まえて、私自身が感じていることを記したい。

●そもそも自主防災組織とは？

地域の方との事前の打ち合わせや、第 1 回目が終わった後の感想を聞くと、「自主防災組織として、どう活動したらよいのかが分からない。」という意見をいただく。活動のイメージを持ってもらう工夫をまだまだしなくてはならないと痛感している。と同時に、「そもそも自主防災組織とは何なのか」を今一度、考える必要があると思っている。

自主防災組織とは、消防庁の資料等をみると、

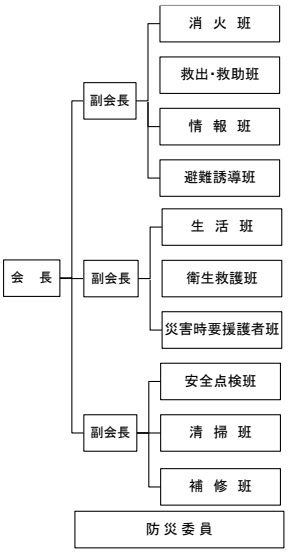
地域防災ワークショップの内容（例示）	
回数	内容（いずれも２時間程度）
第１回	【地域防災講演会】 ・地域での防災について考える ・自主防災組織についての知識を高める
第２回	【災害図上訓練】 ・災害図上訓練を通して、地域の状況を知り、災害時の避難経路等を把握する
第３回	【まちあるき】 ・まちあるきを通し、地域の現状や災害時の状況等を把握する ・災害時の避難経路等について把握し、防災訓練などに活用する ・３回のワークショップを通して、組織設立と今後の活動を検討する

「『自分たちの地域は自分たちで守る』という意識に基づき、自主的に結成する防災組織」とある。もう少し説明を加えるならば、「平常時は防災訓練や話し合い等を通じて災害時に備え、災害時には平常時の経験を活かし、実際に避難の呼びかけ・誘導、救出・救助、初期消火、避難所の運営などを行う、住民自身が自主的に設立し、活動する組織」のこと、と言えるだろう。既に各地で設立されているので、自主防災組織の組織体制であったり、活動内容であったりというのはある程度整理されている。

例えば、静岡県の自主防災組織活動マニュアルでは、自主防災組織の組織図・役割分担の例として、会長、副会長以下に合計 10 の班があり、各班の平常時、災害時の役割が示されている。ここで重要なことは、決して 10 班をつくることを目的としてはいけないということ。私自身は、今回のモデル事業などを通じて、また、組織づくりの過程のなかで、まずは１人１人の防災に対する意識を高めてもらうことが重要で、その結果として自主防災組織を立ち上げ、活動してもらうことだと思っている。組織づくりも、地域の実情に合わせて出来る範囲、やってみようと思うことから初めてもらえればよいと思う。

少し具体的に考えてみる。災害が起きた時に、自主防災組織としてまず取り組むことは、おそらく、みんなを安全に避難させることだろう。そのためには、正しい情報を入手し、正しく理解した上で、みんなに伝えることが必要となる。また、日頃から避難方法（経路、避難場所、避難の際に支援が必要な方の有無）を確認しておくことも重要である。とすると、必要な班としては、情報の伝達方法を確認したり、災害情報に関する周知を図ったりする「情報班」であるとか、避難路の安全確認や避難支援が必要な方を把握する「避難誘導班」などがまず立ち上げる組織として考えられる。もう一つ加えるとすれば、避難所での生活を考えて、炊き出しや食料、水などの給食、給水を担う「給食・給水班」がある。

自主防災組織の組織体制例



出典：静岡県「自主防災組織活動マニュアル」

●地域防災ワークショップの中での発見

第１回目のワークショップでは、毎回、簡単な手挙げアンケートを実施している。幾つか質問を準備しているが、その１つに、災害想定・避難所などを示した「ハザードマップ」についての質問を設けている。選択肢は、「見たことがある」、「見たことは無いが聞いたことがある」、「初めて聞いた」の３つを準備している。各地域で「初めて聞いた」という人が結構、見受けられる。おそらく、ハザードマップを作成している多くの自治体では全世帯に配布されていることと思うが、なかなか見てもらっていない現状がある。ハザードマップは、どこの自治体も非常に工夫して作成している。非常時持出品や非常備蓄品として何を準備したら良いかや地震、土砂災害、浸水といった各災害の特徴、また災害用伝言ダイヤルの使い方などをコンパ

クトにまとめられている。これを見てもらうだけでも防災意識の向上につながると思うので、アンケート後は、「是非、ご自宅に帰って、ご家族のみんなで見て下さい」と呼びかけている。アンケートでは他にも、テレビや新聞でよく見る用語を取り上げて、その意味について尋ねるようにしている。よく見たり、聞いたりするのだけど、実は誤って理解している、あるいは、その意味を知らない、という方が意外と多いことも、この手挙げアンケートをすることで分かった。正しい情報や意味を伝えるということも、このワークショップを通じて行っていきたい。

●最後に

さて、今回のモデル事業はまだ始まったばかりであり、その成果については、改めて振り返りたい。今後とも、参加者の皆さんの防災意識の向上と、その結果としての自主防災組織立ち上げを目指して、企画・運営をしていきたい。

（やまさき　ひろゆき）

公共施設マネジメントセミナー報告

本田　正明

8月1日に九州PPPセンター（産学連携機構九州）との共催で、公共施設マネジメントセミナーを開催しました。当日は、準備した席数ぎりぎりの45名の参加があり、このテーマへの関心の高さが伺えました。

基調講演では、首都大学東京の特任教授である山本康友先生に各都市の事例や東京都での経験を踏まえながら、公共施設マネジメントの現在と未来についてお話をしていただきました。また、パネルディスカッションでは、九州大学の谷口先生にコーディネーターをお願いし、地方自治研究機構の桑野さん、大成有楽不動産株式会社の平田さん、長崎市の鋤崎さんに、コンサルタント、民間、行政、それぞれの立場から、公共施設のマネジメントや公設民営の事業のあり方などについて、意見交換を行ないました。ここでは、紙面の都合上、パネルディスカッションの内容を一部抜粋、再編して報告したいと思います。

●スタートアップの取り組みについて

（谷口コーディネーター）

・今日集まりいただいた自治体は、比較的小さな自治体が多いと思う。まずはスタートアップの段階で、公共施設マネジメントに何から取りかかればいいか、またどういうことに気をつければいいか、についてアドバイスをお願いできないだろうか。

（山本先生）

・最初から大上段に行わないで、小さなことから行うべきだと思う。
・1つ1つの施設を見なおして、ムダをなくし、その結果、どうしていくかという話になる。
・例えば、清掃費の基準を統一することで、品質の確保ができるし、単価を決めることができる。なおかつ、細かく調べた方がよい。ほとんど使っていない避難階段まで清掃しているケースもある。清掃の回数だとか、機械室の温度調整など、数万円単位でチェックを行なうと、いろんな提案が出てくる。
・最終的に一番効果があったのは、ムダをなくし、経費削減した分を財政当局がすべて召し上げるのではなく、半分を事業部局に返すと、それぞれの部局が一生懸命取り組むようになった。
・ある程度成果が出た時点で、公共施設マネジメントの体制を組むといい。2～3人の体制でも兼務でも構わない。そういう流れをつくり、小さな改修から大きな改修へと同時並行で動いていかないといけない。

（桑野氏）

・まず初動の取り組みとして、更新費用の算定を考えられていると思うが、これは比較的すぐに出せる。建築年度と延床面積がわかれば費用の算定ができる。ふるさと財団で使いやすいソフトを提供しており、更新費用の全体



パネラー（左から谷口、山本、桑野、平田、鋤崎）
※敬称略



参加者のほとんどが自治体職員でした

像がわかるので、ぜひ活用していただければと思う。

●民間の知恵の活かし方について

（谷口コーディネーター）

・実際に動き出す事業の中では、民間の知恵を使うという話がある。平田さんの話だと、従来だと縦割りだった発注業務に横串通して包括的に取り組むというお話だった（包括連携の取り組みについては、よかネット 111 号参照）。

・実際の自治体との関わりの中で、こうしてもらえるともっとやりやすいとか、制度が変わるとやりやすいというような民間の知恵の活かし方があれば教えていただきたい。

（平田氏）

・民間の知恵を活かすには、自由度が高ければ高い方がいいと思う。PFI の事業などをみていて疑問を感じるのは、要求水準書という形で、何から何まで仕様が決まっている。民間にしてみれば、両手両足を縛られた中で、民間の知恵を出せといわれても出しようがない。もう少しフランクに考えさせてもらえれば、まだまだ民間は考えられると思う。

（山本先生）

・民間は、提案したノウハウが守られるかということを危惧している。知財を守ってくれる自治体でないと、なかなかノウハウを出しにくい。

・また、民間の提案をチェックする側の人材の問題もある。民間に委託すると、その部門の人材がいなくなり、更新時などにチェックする人材がいなくなってしまい、困るというケースが見られる。

●計画の実行について

（谷口コーディネーター）

・桑野さんは、全国の事例をご覧になっている。公共施設の調査や白書をただのカタログで終わらせずに、行政改革として戦略的に行なっていくことが重要だというお話だった。行政改革の流れの中で、民間の知恵を使うという戦略の部分について、どのようにお考えだろうか。

（桑野氏）

・どの自治体も担当者が大変試行錯誤されている中から、戦略や施策を編み出している。これからは、そういったノウハウや方法を自治体間で公共財のような形で共有していくという取り組みが重要になる。

・例えば、地域の大学の先生などが中心となり、研究成果を共有するコンソーシアムみたいなものを作り、自治体間でノウハウや方法が流通するようになれば、試行錯誤していたものが社会的資産として活きてくるのではないかと思う。

●利害関係者との調整について

（谷口コーディネーター）

・調査をし、白書、計画をつくり、実際に実行するプロセスに移った場合、いろんな関係者が出てくる。公共施設マネジメントを進めていくために、議会との関係やあるいは住民をどう巻き込んでいくかというあたりについて、アドバイスをいただきたい。

（山本先生）
・住民とどのように話し合っていくかという具体的なところだが、利用者と話さないといけないが、そこだけでは市民全体の意見にはならない。無作為アンケートなどを地域地区で行いながら、話し合いをしていく必要がある。議会も大事だが、中心は住民である。住民に正直に向かっていかないといけない。

（桑野氏）
・公共施設の数を減らし、行政サービスの水準が下がってしまうと、住民は他の自治体に流出してしまう。行政サービスの質を下げないためには、習志野市のように施設と機能を分離して、機能を維持していくことが重要になる。機能再編の際、中核になるのが学校施設である。学校施設については、これまでは地域住民の意向とは関係なく集約していたが、震災以降、学校を情報交換や交流の場として機能を再編するという理解が東北を中心に進んできている。

（鋤崎氏）
・長崎市でも計画の実効性はどう担保するのか、ということが議会でも問われている。他都市と比べて学校が非常に多いという問題もあり、学校に手をつけなければ、公共施設マネジメントはできない。学校を中心とした再編を考えていかなければならないということで、まず庁内で一枚岩にならないと住民には話に行けない。
・そのため、現在、庁内ヒアリングをやっている。まず、施設で提供している行政サービスの在り方や将来的な方向性についてや福祉や子育て等のサービス専門部署の考えを整理してもらう。次に、所管が考えたサービスを行う際に、本当にそれだけの施設がいるのか、民間施設ではダメなのか、他所の施設を使ってできないかというアプローチで全施設所管と話をしている。今後は、その合意を基に施設別計画につなげていく。
・実行するには、まず庁内の合意形成が一番大切。長崎市の全市的な方向性が庁内で共有できれば、地域に出ていけるのかなと思っている。

中小規模の自治体では、これから更新時期を迎えるとともに少子化によって遊休化しつつある小中学校施設をどのように再編、再配置していくかが、重要になりそうです。教育機能を単純に集約するだけでなく、地域を維持していくためにどのような機能の再配置が必要か、そうした議論が必要だと感じました。その議論の時間を確保するためには、早期から公共施設マネジメントに取り組んでいく必要があります。私たちも桑野さんの話にあったように、自治体での取り組みやノウハウを共有できる場をつくろうと、公共施設マネジメントに関心のある自治体と一緒に研究会の立ちあげを準備しています。ご興味のある方はご一報ください。

（ほんだ　まさあき）

皆様から寄せられた「よかネット」へのご意見、近況などの紹介（敬称略）

■私はかつて行政の中にいて、産業立地や地域整備まちづくり等の仕事に携わっていたこともあり、北九州でのまちづくりにかかわる「よかネット」を毎号楽しく読ませていただいております。自らもそういった関係の勉強会、研究会によく参加しておりましたが、今では、それらも飲み会風に残っている程度です。

（高槻市　日野　博彦）

■昨年３月佐賀大学を停年退職致しました。佐賀で培ったコミュニティベースでのまちづくりのノウハウをこれからは対馬の地で活かしたいと思っています。　（対馬市　長　安六）

■よかネットは時代の先取り活動を教えてくれるので楽しみです。私は、目下「焙りたてコーヒー」のインストラクター活動にはまっています。　（長崎市　池田　毅）

■長年、都市や住宅関係の研究と実践をやってきましたが、「まちづくり」は３ヶ年くらいで小さな成果を挙げつつ、進捗を実感しながら、展開を図ることが大切だと、改めて理解を深めています。　（長崎市　鮫島　和夫）

■日本の畜産の革命を起こす、九大の共同研究に参加することになりました。おいしい肉ができましたら、よろしくお願いします。
（福岡市　簑原　俊樹）

■先日、鹿児島に参りました。よかネットとも大変懇意にされている先生宅に宿泊させていただき、大変な御馳走に与ることができました。朝方までの「飲ん方」で、九州の方々（鹿児島と博多とは違うと言われそうですが）の、あたたかさと酒の強さを感じた１日でした。
（大阪市　中塚　一）

■昨年 11 月に出産し、子育てしながら仕事ができるようにと、長崎の日見宿に転居しました。子育てで自分の時間が限られる中、保育園中に何とか仕事を終えようと、時間あたりの集中度が一層高まりました。新しい働き方ができているような気がします。只今、大学そばにあった、水車（直径４ｍ程）の復原に取り組んでいます。できたら面白いことになるなとワクワクしています。
（長崎市　山田　由香里）

■地域の高齢者（特に元サラリーマン）を、いかに地域社会にとけこませるかという事を考えています。そのための話題づくりに苦労しています。よかネットは大変参考となります。
（神戸市　吉田　昭彦）

■毎年１回よかネット近況欄で、失われた 20 年の克服にはリフレ政策（小バブル）しかないのでは、と主張してきたが、この一年の間にリフレ政策を掲げた政権がうまれ実施しはじめるとは、思いもしなかった。リフレ政策以外のアベノミクスは、安倍政権の経済以外の政策と共にあまり評価しないが。未だ反リフレ、非リフレ、条件付リフレ派が大勢だが、日本人はインフレは悪とすりこまれているからだろう。成長経済の調整装置・駆動装置の一つとしてプチ資産バブルは不可欠、必要悪である。円安メリットは輸出型大企業のみ享受というのも誤り。ところでアベノミクス第３の矢は期待からまわりで難題だが、原発再稼働とカジノ解禁が当面ベターだと思う。　（東京都豊島区　佐藤　正憲）

■毎号「よかネット」を愛読しています。86 才になったためか、「若者に贈る言」とか、「アジア共同体」に関心をもっています。たとえば、「海外の地域開発等に携わっての感懐」（都市計画協会７月号）をまとめました。一読してください。
（小金井市　渡部　與四郎）

■ 2013 年４月から 70 才の活動として、多様な取組みに挑戦しています。特に、地域振興の現地活動に専門家として参加しています。大学では、市民大学院、高大連携、大学と地域連携センターの活動、専門を活かしたコンサルタント経営論や観光経済学と地域振興のコミュニティ・ベースト・ツーリズム（着地型観光手法）、JICA 技術研修、港湾研修に参加しています。
（彦根市　金井　萬造）

■いつも勉強させていただいています。一般にない身近な視点、これからの地域づくりは、コミュニティをつくることが原点になると思います。
（北九州市　山﨑　朖）

■いつも新たな情報をいただき、学ぶこと多々有りです。地域の歴史・文化を掘り起こし、地域の人々の誇りを醸成するために、「続風土記の村歩き」を準備中です。（小郡市　井澤　洋一）

■約３年前に完全停年退職し、現在「全国空襲被害者連絡協議会」の活動を、運営委員や、「九州ブロック」の役員をして、お世話をしています。そんな折、亡父の足跡調査に乗り出し、7 月 24 日から一週間、「福岡県日朝友好協会」の訪問団の一員として「訪朝」することになりました。約半世紀、胸に抱いていたことの実現です。
（柳川市　平川　硬一）

■現在、うきは市吉井町内の賃貸に住んでいます。町内に家を建てようと不動産情報を集めていますが、売物件となると数が少ない。市主導で「空き家バンク」が立ち上がったので、とても期待していましたが、未だに１件しか登録がありません。口コミも活用して、ゆっくり地道に探すほかないようです。
（うきは市　小田　好一）

■平筑の話題を取り上げていただき、ありがとうございます。今年度は幸いなことに梅雨の大雨をクリアーしたのでホッとしています。あとは、アクションプログラムの実施に向けて GO!
（直方市　武内　功）

■弊社、白糸酒造のおめでたい事。
① 2013 年、第 7 回天満天神梅酒大会にて、弊社の「しらうめの庭」が 308 銘柄中、第一位の栄誉をいただきました。
② JR 九州のななつ星のクルーズトレインに弊社の「田中六五（たなかろくじゅうご）」の採用が決定しました。（糸島市　田中　信彦）

■市役所再任用で 3 年目です。市職員の安全衛生を総括しています。メンタル不調者が多く対策に頭を痛めています。「よかネット」では、いろいろなまちづくりの実践例が紹介されて、とても参考になります。今後とも楽しみです。
（北九州市　丸山野　美次）

■鮎魚醤に引き続き、6／5 肉醤を新しく作りました。平安時代、京都に 7 軒の醤油屋が有り「穀醤（今の正油）」と「魚醤」「肉醤」を製造販売していたそうです。日本で唯一の平安時代の醤油メーカーに復活しました。
（日田市　原　次郎左衛門）

■日南でのまちづくりをやっています。3 月末にアメリカカリフォルニア州のカーメルに行ってきました。信号機がない街、街灯がない街、建物は 2 階建まですばらしい街でした。
（宮崎市　河野　敏郎）

■一般社団法人環境評価研究機構から声をかけていただきました。災害面から環境評価をして、地域に情報を提供するもので、学者、研究者の集団です。ホームページをご覧ください。
（川西市　髙橋　久栄）

■ 6 月に鳥栖に重粒子によるガン治療センターを 4 年がかりで完成させました。“切らずに治す”治療です。セカンドオピニオン・外来は開始しました。12 月には先進医療の認定をうけ、がん保険対象治療となる予定です。新鳥栖駅前徒歩 2 分です。日本初の民間施設として完成しました。
（東京都世田谷区　山野　宏）

■ 88 才で 1 人旅。12,000 キロも飛んで、タヒチクルージング。不思議な健康と心身のバランス。でも、年相応にくたびれていたのですね。帰国後、緊急入院。退院して自宅静養中。回復途上。
（春日井市　津端　修一）

■いつも楽しく読ませていただいています。URC は 8 月、設立 25 周年を迎えます。資料室も、さらに研究サポートを目指します。
（福岡市　山崎　三枝）

■橋下大阪市長の市政改革の一環で、局長・区長および三セク社長などが、公募選出となっており、当社も 3 月末新社長が就任、再建活動を始めました。
（東京都世田谷区　寺島　清）

■田舎に住んでおりますので、福岡の都会の記事が楽しみです。道の駅の最新のニュースをお願い致します。全国の大人の女性は道の駅が大好きですから・・・。
（宇佐市　佐藤　陽子）

■まちづくりに教科書的セオリーがなくなってしまった今日、貴紙の分析・紹介はとても説得力があります。当方も、地元でまちづくり協議会を立ち上げたところです。これからも、他に類のないオリジナルな情報発信に期待します。
（東京都北区　大竹　亮）

女性だけで立ち上げた農業法人組合 モア・ハウス～しめじとアスパラ生産～

山田　龍雄

前々から農業で頑張っているところやユニークな取り組みをしているところを取材したいと思っていた矢先、当社の所員が、福岡県大木町で女性だけでキノコを生産しているグループがあることを教えてくれた。そこで、早速取材をさせていただいた。

「モア・ハウス」とは、オランダ後のモーア（母）と英語のモアー（もっと）から引用したそうで、まさに女性、母だけの共同体という意味ではおしゃれなネーミングである。

「モア・ハウス」は西鉄大牟田線八丁牟田駅から南側に歩いて 10 分ぐらいのところにある。

工場と併設した事務所で代表の大藪佐恵子代表にお話を伺った。

●女性だけの農事法人組合誕生のきっかけは？

福岡県筑後南部の大木町は、古くから米・麦の生産に加え、イ草の産地として栄えていた。しかし、近年、イ草は中国産の輸入増加による価格低迷やライフスタイルの変化により、畳な

どのイ草商品の需要が激減し、農業経営を圧迫していた。このような中、イ草に替わる、天候に左右されない作物として、昭和59年キノコ栽培が大木地区に導入され、しめじ部会を立ち上げた。このしめじづくりの核となるしめじの培養工場である「大木しめじセンター」が平成8年に設立された。

このセンター設立の中心人物の一人であった水落氏が、女性の自立と雇用拡大を図るため、女性だけの農事法人組合づくりを推奨され、出資者を公募した。その結果、女性4名の応募から始まったのが「モア・ハウス」である。

「大木しめじセンター」は、図に示すように6つの共同体（農事法人組合、有限会社）と個人1名の計20名で組織された組合であり、「モア・ハウス」は、その共同体組織の一つである。

当初の出資金は、1人600万円とし「大木しめじセンター」に400万円、「モア・ハウス」200万円、計600万円を4名で2,400万円を出資した。

●約6,200万円のリスクを抱えての事業化

「モア・ハウス」の事業化にあたっては、工場建設や設備導入等で約1億2千万円を準備する必要があった。

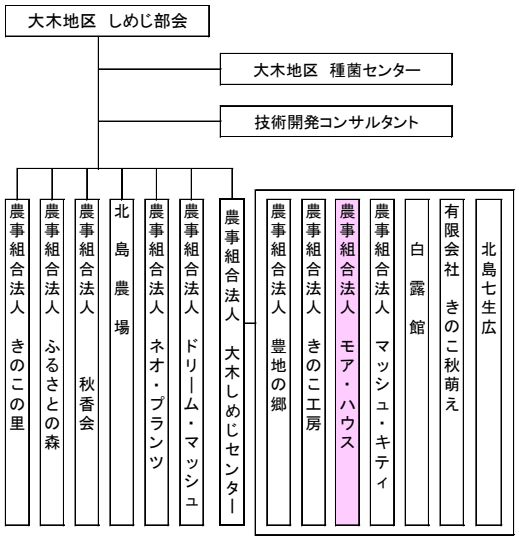
このうち約48%が県・町からの補助金で賄われたが、残り約6,200万円は、ＪＡや県の信用金庫などから借入を起こしたという。

私が「凄いですね。6,000万円もリスクを負って事業化なんて、なかなかできないことですね」と言うと、「40～50万円の借金だと長続きはしないのよ。大きい借金をしたからこそ続けてこれたのよ。また、設立する前はイ草とイチゴの設備投資で1,000万円の借金があったから、とにかく何か事業をやって借金返済しなければならなかった。」と笑いながら言われたが、家族の理解や事業にかける思いなど、当事者しかわからないご苦労があったことと思う。今では、借金も完全に返済したそうだ。

●今では倍近く増えた従業員

「モア・ハウス」では「大木しめじセンター」でしめじ菌が培養された瓶を買取り、その瓶を15℃に保たれた発芽室で、発芽させ、収穫し、

JA福岡大城　大木しめじ部会の組織





のどかな田園地帯にあるモア・ハウス

包装をしている。

発芽している工場を見せて頂いたが、奥行き12～13ｍ程度、5段の棚に培養した瓶がすき間なく並べられている。夏場は約4,000本／日、冬場は約8,000本／日の出荷が目標となっており、包装している工場を除くと、7名の女性が収穫と包装作業をされていた。

現在、正社員7名、パート13名であり、正社員数は設立当社の倍近くとなっている。また、正社員の中には男性も2人雇用されているので、今は「女性だけの農事組合法人」から「女性中心の農事組合法人」ということになっているようだ。

男性社員は、アスパラ栽培としめじ生産の方にそれぞれ1名づつ配属されている。

パートを含め18名が女性であり、子育てや家事との両立で大変であろうと思い、働き方の工夫についてお聞きすると「福岡県の子育て応

援宣言企業に登録しています。女性は、子どもが急に熱を出したりして、突発的に休まないといけないことが多いのです。このような時にはお互い様ということで、カーバーし合って頑張るようにしています。」とのことであった。

現在、生産量はしめじが年間 280 トン、アスパラが 2.8 トン（目標３トン）ということで全て JA を通じて、市場へ出荷されている。

しめじとアスパラ及び加工品を含めた年間の売上げ額は、約１億２千万円である。特にしめじ販売では、北陸の大手メーカー産や生産量の過剰気味等の影響もあって値が下がり、売上げも伸び悩んでいるそうだ。

●品質の良いものを使った加工品づくり

平成 17 年からしめじやエリンギを使った加工品づくりに取り組んでおられる。

「モア・ハウス」の加工品は、生産したキノコの屑ものを使ういうのではなく、品質の良いものを使って加工されている。特に「焼きエリンギ（ピクルス漬け）は、平成 19 年全国農業コンクール「農林水産大臣最優秀賞」を受賞されている。

このエリンギは町内の農家から仕入れている。大きくて品質の良いエリンギを使用しないといけないらしく、手焼きしているので出荷量も限られている。

加工品は、すべて「道の駅・おおき」で販売されており、今のところネット販売はされていない。しかし、電話注文は可能である。

今後の目標は、生産量の２割を加工品に回し、付加価値を高めていくこと、また、アスパラの生産量の拡大であり、これからの「モア・ハウス」の頑張りに期待したい。

これまでは、スーパーマーケットでキノコ類を買うときに、どこの生産地なのか気にかけていなかったのであるが、これからは地産地消、地元応援という意味で、大木町産のものを購入しなくてはと思った。　　（やまだ　たつお）



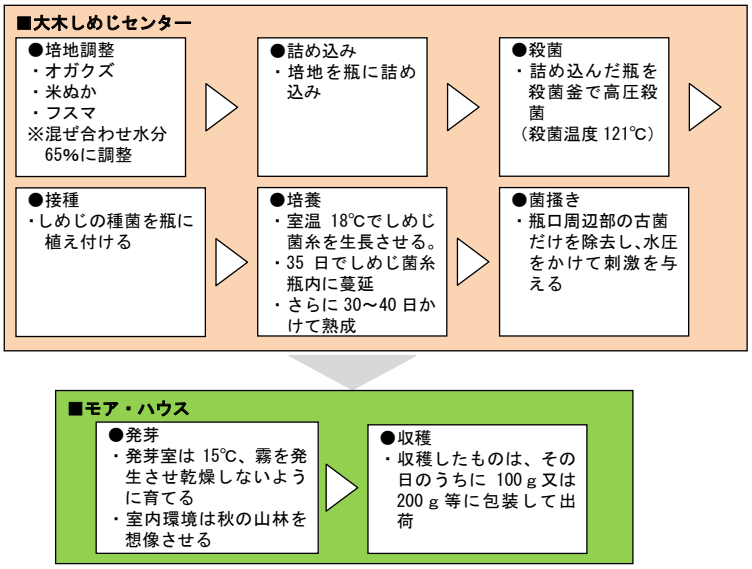
培養した瓶で発芽したしめじ



発芽したしめじを収穫し包装している

しめじの栽培から収穫の行程

最初の瓶の中の土づくりから菌掻きまでを「大木しめじセンター」で栽培し、モア・ハウスはその瓶を購入し、発芽・収穫、包装までを行う。



平成筑豊鉄道『田川ホルモン鍋列車』
出発～B－1グランプリ初の公認鉄道企画～

山辺　眞一

前号で紹介した『田川ホルモン鍋列車』の試乗会を経て、9月7日土曜日に、一般募集による実走が始まった。平成筑豊鉄道と「伊田商店街振興組合」並びに「田川ホルモン喰楽歩」との連携により、平筑沿線地域の代表的な「食」と言える「田川ホルモン鍋」を列車の中で味わおうという商品である。

今回の企画は、『田川ホルモン喰楽歩』監修のもと、「ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリ」初の公認鉄道企画として、行われたものである。

2両編成の列車に12テーブルが持ち込まれ、各テーブルに4名ずつの座席が配置された。

参加者は、いろいろなで、友達グループもあれば、家族でという人もいた。1テーブル1万円（1人2,500円）という価格で、飲み物・アルコール類は別料金である。



ホルモン鍋列車のヘッドマーク



出発前の列車に乗り込む人たち

17時からの受付開始時には、既に多くの人が出発駅の伊田駅に集まり、列車の到着を待っていた。出発前10分、駅のホームに入った来た列車の正面には『田川ホルモン鍋列車』のサインが入ったヘッドマークが誇らしげな姿で掲げられていた。

お客さんたちが乗車し、列車は17時30分定刻に出発、関係者の方達は、飲み物の注文を受け、既に配膳準備されていたホルモン鍋に火がつけられ、しばらくすると独特の鍋の香りが列車中に漂い始めた。ビールで乾杯の声があちらこちらから聞こえ始めた時、田川ホルモン喰楽歩会長の金子和智さんから、お礼の挨拶があり、一気に車内は宴会モードへと変わった。

テーブルは、通路の中央に置かれ、通常の座席を利用して、テーブルを挟んで椅子が配置され、反対側の座席との間が移動用の通路となっている。初めての企画ということもあり、お客さんと食事の関係者だけでなく、テレビ局や新聞社の取材陣や地元の役所の広報の人たちが大勢いて、にぎやかな車中となった。

30分ぐらい経った頃には、既に鍋が底をついたテーブルもあり、お替わりを注文する人、テレビの取材に赤い顔をして答える人、ホルモン鍋のレシピを聞く人、蘊蓄に耳を傾ける人、みなさん楽しい時間を過ごしていた。残念ながら、鍋を楽しむことは出来なかったが、次の機会にじっくりと楽しむこととしたい。

（やまべ　しんいち）



賑やかな車内の様子
～スープのレシピを聞く人食べる人～

近　　況

よかネット北九州でセルフリノベーションをやってみた

お盆休みの期間を利用して、8 月 15 日から 18 日までの 4 日間の北九州リノベーションスクールに参加しました。リノベーションスクールとは、『北九州にある実際の遊休物件を対象に、4 日間で受講生と講師陣が一丸となって実務レベルのリノベーション事業計画を不動産オーナーへ提案します（開催概要より）』というものです。

スクールでは、8 時、13 時、19 時の講師によるレクチャーを受け、リノベーション事業の組み立て方などを学びながら、各ユニットで対象案件の事業計画を自ら作り上げていきます。慣れない場所で、初めて会う仲間と徹夜で最終日の不動産オーナーへのプレゼンを仕上げるというなかなかハードなカリキュラムです。

私が参加したのは、今回から並列開講されたセルフリノベビルダー向けの特別コースです。事業計画コースと違って、スクール期間内に実際の物件を講師陣とともにリノベーションしてしまうというもの。私が個人的に事業を考えているシェアオフィスをつくるということなので、家族に無理をお願いして参加しました。参加者は 10 名。関東、関西、九州の各地から集まっています。学生や工務店、建築家、カメラマン、不動産会社と業種も多彩です。過去の事業計画コース参加者もいました。過去のアーカイブで、事業計画コースのハードさを知っていたので、覚悟をしていましたが、現場は「安全第一」ということで夜中までの作業はないことに、正直ほっとしました。

具体的な作業は、4 日間で部屋を細かく分ける間仕切り、壁づくり、コワーキングスペースのテーブル・パーティションをつくるというもの。講師の工具箱から出てくる様々な機器の使い方を聞くだけで、すでに頭の中はパンパン。何度も工程を思い出しながらの作業は時間がかかります。しかも、みんながそれぞれの作業を経験するために、慣れると仕事を変わり、まったく効率は上がりません。講師の方々は、よくぞ素人集団が 4 日間でできる工程を考えたものだと関心しました。

一番勉強になったのは、失敗したときの対応です。板を均等の幅で切り、壁に貼り付けたのですが、素人作業なので、どの板も幅がまったく揃っていません。ディテールを気にし過ぎていると、水平のはずの板が斜めに傾いていました。小手先でなんとかしようとすると、状況は悪化するばかり。そんなときには、基本に立ち返り、水平を図り直すことで、なんとか“手づくりらしさ”ぐらいの状況まで回復することができました。

作業時間も内容によってだいぶ異なりました。間仕切りの壁をつくる作業は、けっこう時間がかかると思ったのに、始めてみると、2 ～ 3 人で 2 時間ぐらいです。一方壁への板貼り作業は、材料を細かく分けたこともあり、4 ～ 5 人が 2 日間まるまる作業をしていました。工務



壁の板の貼り方をみんなで検討中



完成したシェアオフィスの見学会

店の見積もりはコンサルタントと似ていて、人工（にんく）単位ですが、この辺りの作業量の時間感覚が重要なんだなと感じました。ちなみに、今回は、10人で4日間作業なので40人工、でもプロがやれば10人工ぐらいのボリュームだそうです。半人前どころか、4分の1人前ぐらいしか役立っていないようです。それでも3日目ぐらいからは、みんなそれなりに機械を使いこなしてテキパキと自主的に作業をこなせるくらいにはなっていました。しかし、オフィスワークばかりだと、せっかく身につけた技術も、すぐに忘れてしまいそうです。シェアオフィスで実践するまでに、DIYで自宅の棚ぐらいはつくろうかと思っています。

（本田　正明）

国際リニアコライダー（ILC）の誘致活動その後

国際リニアコライダー（ILC）計画とは、世界最大の直線型高エネルギー粒子加速器と、そこに付随する基礎科学の大規模な世界研究所を誘致しようという計画である。この加速器は、全長約30km～50kmの地下トンネルであり、その中で電子と陽電子を光速近くにまで加速して正面衝突させ、宇宙誕生直後の状態を再現することで、物質の根源、宇宙誕生の謎に迫る。当社が福岡県・佐賀県から委託を受けて、リニアコライダーが地域に与えるインパクトと、これを活用した九州北部の国際研究都市のあり方を提案したということは、2012年4月のよかネット106号に記載した。

それから1年が経とうかという3月、中学・高校の一つ下の後輩の岩木君（(株)九州通電専務取締役）から久しぶりに電話がかかってきて、食事会に誘われた。そこには学生時代からの知り合いの榎本君（(株)zero-ten代表取締役社長）も来ていて、ILCの誘致活動を盛り上げ、九州の市民レベルの熱意を数として示すために署名活動を始めないか、という話であった。私もILC誘致のため、何かできることをしたい、という思いがあったので、二つ返事で共に活動していくこととした。

身近な友人達数名に声をかけ、「九州へのILC誘致を実現する会」が立ち上がった。メンバーは福岡、佐賀の20～30代の7名。仕事はイベントプロデュース、デザイン、通信・OA機器関連、広告代理店など様々。メンバーの中で最も実業とILCとの関わりがあったのが私で、それ以外は皆、「九州の未来のために」「夢があるプロジェクトだから」など、個人的な思いで集まった面々であった。

署名活動の目的は「宇宙の始まりとされるビックバンを再現し、宇宙誕生の謎に迫る国際リニアコライダー（ILC）が、九州・脊振地域に設置されること」とし、活動期限は7月末まで。署名数の目標は10万人。集めた署名はリニアコライダー国際研究所建設推進議員連盟会長の河村建夫衆議院議員に届けるということでスタートした。そして3月28日、まず署名サイトと、facebook、twitterなどのソーシャルメディアアカウントを立ち上げた。予算は全くなく、マンパワーにも限りがあるため、HPはzero-tenのスタッフが立ち上げ、そのURLを各個人のソーシャルメディアアカウントを使って拡散していった。

当初は「ILC誘致にご協力を」と呼びかけても、「ん？ ILCって何ね？」「リニアモーターカーとどう違うと？」などと返されたり、ILCを知っている人は100人中2～3人かな、という感触で、署名数も伸びずに苦戦したが、5月に入ってから新聞やテレビでILC関連のニュースを目にする機会も増え、「ああ、新聞で見たよ」など、知名度が上がっていると実感することが多くなった。それに伴い様々な会合やイベントなどで活動をPRさせていただく機会を多くいただけるようになった。私たちの会のメンバーは様々な資料を読み込み、また客観的なデータの数々を共有し、「九州・脊振山地の方が北上山地よりも研究に適した生活環境であり、日本、世界の物理学の発展ためには、ILCは九州に立地した方が良い」と思い込んでいるので、プレゼンの場では言葉に熱い思いを乗せて説明することができたと思う。

こうした場を重ねることで、共感し、支援していただける企業・団体も増えてきた。例えば、



九州への ILC 誘致を実現する会のウェブサイト

アビスパ福岡は、ホーム試合の観客全員に署名チラシを配ってくれ、スタジアムの中外で署名活動をする機会を 2 回いただいた。また、九州の経営者たちで組織される「博多 21 の会」は、HP に署名サイトへのリンクを貼っていただき、「博多 21 の会」主催の街頭署名も行われた。知人に署名用紙入りの手紙を何十通も送付してくれた方や、役所の中で署名用紙を回覧し、2000 人の署名を集めた自治体、有志で約 700 人を集めた大学生、街頭署名に参加してくれた方々など、ここでは紙幅の関係で個別の企業・団体・個人名を挙げることは難しいが、本当に多くの方々に、署名活動に協力をいただいた。

6 月に入ってからは九州経済連合会の篤いご支援をいただき、九州の金融・インフラ・建設などの中核企業に本格的に署名活動に参画してもらったことで、一気に加速。7 月 3 日には上京し、河村建夫 ILC 建設推進議連会長に署名 17 万人を報告。そして 8 月 10 日は、7 月末で最終集計した 355,467 人の署名を、ILC 問題九州国会議員連絡会の代表世話人である原田衆院議員、今村衆院議員はじめとする福岡・佐賀選出の国会議員 10 名に引き渡した。また、有川九州大学総長、松尾九州経済連合会名誉会長、小川福岡県知事をはじめとする ILC アジア－九州推進会議の方々にも立ち会っていただいた。

素粒子物理学の研究者で組織される ILC 構想立地評価会議は 8 月 23 日に、北上山地が ILC の立地に適しているという評価結果を発表した。この発表は私たちにとっては不本意なものであるが、私たちが街頭署名や、様々な勉強会や会合で ILC の誘致活動についてお話する時間をいただいたり、いくつかのメディアでも取り上げていただく中で、ILC の理解促進・機運の盛り上げには微力ながら貢献できたかと思う。まだ政府としては ILC の誘致を宣言しておらず、政府として候補地をどこにするかも決定した訳ではない。また、立地評価会議の項目別の採点結果を見て脊振山地が優っている項目はほとんど無い、評価プロセスが一切ブラックボックスとなっており議論の経過が不透明であるなど、立地評価会議に対してお話をお聞きしたい点がいくつかある。現在は、この事実関係を確認中であり、35 万人の声を預かっている立場として、政府決定までは誘致活動を継続していこうという話をしている。

最後に、今回の活動では、本当に多くの友人知人、諸先輩方から励ましのお言葉やご協力をいただきました。個人で署名を集めていただいた皆様や、サポーター企業にご登録いただいた皆様にも、本来は直接御礼を申し上げるべきですが、まずはこの場を借りて報告させていただくとともに、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。　　（原　啓介）

公益財団法人九州運輸振興センター主催 第 48 回九州運輸コロキアム「発想の転換が公共交通再生の道～いすみ鉄道の再生を通じて～」に参加しました

昨年度から度々、本誌でも紹介しているように、現在、平成筑豊鉄道の経営改善に向けた取組をお手伝いしている。平成筑豊鉄道をはじめ、全国の地方鉄道が置かれている経営状況はどこも非常に厳しいものがある。そのなかで、ユニークな取組によって徐々に活気を取り戻している鉄道もある。いすみ鉄道がその 1 つである。「ムーミン列車」や応募者自らが養成費用（700 万円）を払う「公募運転士」の取組などでご存知の方もいらっしゃるかもしれない。今回、いすみ鉄道の社長である鳥塚氏の講演を聴く機会を得た。そこから感じたことをまとめてみたい。

●いすみ鉄道概略

話の舞台であるいすみ鉄道について簡単に触れておく。いすみ鉄道は、千葉県房総半島のい

すみ市・大多喜町を走る路線で、大原駅と上総中野駅の全長 26.8km、全 14 駅を約 1 時間で結んでいる。大原駅でＪＲ外房線と、上総中野駅でＪＲ内房線の五井駅まで走る小湊鉄道と接続している。また、道路網が整備されたおかげで、羽田空港から 50 分で到着できる距離にある。

経営状況については、講演で、鳥塚氏が社長となるまでは、1 億円の売上に対し 2 億円の費用が係っている状況であったと紹介されていた。国鉄木原線からＪＲを経て、1988 年に第三セクター鉄道として誕生して以降、ずっと赤字経営が続いていた。そういう鉄道会社に、鳥塚氏は公募社長として 2009 年に飛び込まれた。

●悲壮感ではなく、郷土愛を揺さぶる

講演の冒頭で、いきなりドキッとする話を聞いてしまう。大体、このような内容であった。よく、「乗って残そう運動」をされるところがありますが止めた方がいいです。そういう悲壮感よりも、みんなが楽しめることをした方がよい。そもそも、沿線住民の皆さんは鉄道に対する熱い想い（気概）を持っている。

この話をされた時、事例も合わせて紹介された。それは、鳥塚氏がある鉄道会社の存続を呼びかける会議に講師として呼ばれた時の話である。講演会場で、「今日、鉄道でこの会場に来た方はいらっしゃいますか」と尋ねたところ、参加者のほとんどが下を向いてしまった、つまり、鉄道を利用して来た人がほとんどいなかったそうだ。それであれば、無理に乗って残そう運動をするのではなく、みんなが笑顔になる仕組みを考えて鉄道に乗ってもらうようにしたらどうか、というのが鳥塚氏の言わんとすることであった。

私自身は、「乗って残そう運動」が必要かどうかというのは重要ではないと思っている。それは、鉄道会社が置かれている状況（立地、経営状況、地域住民、自治体との関係など）で判断したらよい。通勤通学需要が見込めるところなどは、乗って残そう運動が有効に働くと思っている。この話の中で共感したのは、鉄道を利用して頂くために、みんなが楽しめること（笑顔の仕組み・仕掛け）を考える、という点だ。



いすみ鉄道のパンフレット

確かに、悲壮感漂う、重苦しい雰囲気のところに人は集まらない。楽しく、笑顔が溢れる場所に人は集まるものだ。

●誰をファンと捉えるか

ファンにも色々な層がある。「鉄ちゃん」と呼ばれるコアな層もあれば、駅の清掃、手入れなど地元の鉄道好きの皆さんを中心とした層もある。日常的に利用している通勤・通学者と呼ばれる層もあれば、鉄道会社のサービスに引きつけられる層（観光利用の層）もある。

いすみ鉄道は、東京都心から 50 分という距離を最大限に活かし、首都圏からの観光客に狙いを定めて取組を展開している。都心から 50 分で懐かしい気動車が走るのどかな風景に出会える。いすみ鉄道では、国鉄木原線時代に走っていた気動車を購入し、走らせている（新型の気動車を購入するよりも非常に安価で取得できたそうである）。一面の菜の花のなかを、かわいらしいムーミン列車（ムーミンをはじめ、各車両に名前が付いている）が走ってゆく。講演を聴く限りでは、「何もない」ことや「懐かしさ」を軸に取り組まれているようだ。それが、みんなの笑顔を生み出している。

●特効薬なし、地道にコツコツが基本

この 1 年間で、地方鉄道の取組を色々と見てきた。実際に現地に行ったり、今回のように話を聞いたりしてきた。ここまでの地方鉄道再生の取組に対する私の結論は、特効薬はないということ。それから、一度、この取組をすると決めたら必ず実行する、この 2 点である。

前者については、どこもあの手、この手と工夫されている。結局、鉄道ごとに戦略は違って当たり前であり、その鉄道固有の戦略があってしかるべきなのだ。幸い、戦略を考える上でのヒントとなる事例は増えて来ている。あとは、どれだけ応用できるかである。

後者については、「決める」と「実行する」はセットで考えてこそ、初めて意味がある。地方鉄道のほとんどが赤字経営であり、何か手を打たないといけない状態である。出来る範囲で、とにかくすることを決めて、実行してみることが状況を変える一歩だ。

（山﨑　裕行）

よかネット TOM ネットまちづくりセミナー第 2 講座
『空きビル再生の取り組み』
講師　ダイスプロジェクト　橋爪代表

地方の中心市街地の活性化に取り組む TOM ネット九州会のまちづくりセミナーの報告をしたい。今回のテーマを思いたったのは、昨年末から地方都市の中心市街地の空きビルをどうすれば再生できるか、という相談を受けたものの、どの方策にも一長一短があり、共通解というのは無いという結論に至り、実際にはどういう取り組みがあるかを知りたいと思ったためである。知り合いの建築家に相談したところ、（株）ダイスプロジェクトの橋爪代表を紹介してもらった。

都市、建築、空間、そしてコミュニティをデザインという視点から再生することをミッションとして、橋爪さんがこれまでに取り組んでこられた３つの事例を紹介して頂いた。

一つは、老朽化した旅館別館客と賃貸住宅の複合ビルの再生事例：Lassic、２番目に一棟のオフィスビルを『今日美人』というコンセプトで複合商業施設へ再生：waon、３つ目は、老朽化した賃貸住宅（社宅）を入居者によるセルフリノベーションというテーマでこだわりを持つ人たち向けの賃貸住宅へ再生：ニレノキハウス、の３つの事例である。詳細については、同社のホームページ（http://www.diceproject.com）にも掲載されているので、そちらをご覧いただきたい。



紹介事例
Lassic 入口付近

← BEFORE
AFTER
↓



橋爪さん曰く、空きビルを元気にする視点と行動は、一人では活性化は困難、いろんな人が集まる事でビルが活性化する、そのための状況を創り出すことである、ということである。

紹介して頂いた事例は、この考え方と行動を分かりやすく示されたものであり、一つ目の事例では、『場の情報をデザインする』、２つめは『コンセプトを活動にする』、３つめは『貸し方をデザインする』、というように、シンプルな言葉であった。いずれも再生に向けたミッションの柱をまず建てること、そのために周囲のいろいろんな人たちの知恵や場力を結集すること、これらの人や知恵、創造活動を、活性化に向けて巻き込んでいくことが、いずれにも共通していることと思った。特に、物件の再生によってイメージが良くなる、にぎわいづくりが期待できる範囲をエリアとし、そのエリア全体でのプロモーションが、プロジェクトとエリアに相乗的な効果をもたらすということが重視されている点は、単体のプロジェクトから周辺地域へ

連鎖させていく方法として重要と感じた。裏返せば、単体の失敗は、周辺への影響も大きいということである。

まちなかの活性化は、ひとつのビル、ひとつの店舗だけの問題では無く、地域として抱えている問題である。一つのビルや店舗を再生することにより、それが周囲を変え、効果も期待できるというのであれば、地域にとっても望ましいことである。

地域のおもしろい人を発掘、つながりの人を拡大、大きなネットワークづくりが重要と言われた。『場の情報』をいかにデザインできるかということが、全ての始まりである。

ただし、1年で改修できる規模の投資を前提条件として、全てのデザインとタイミングを考えて取り組まれていることを付け加えておく。

（山辺　眞一）

偉大なる空芯菜
～志賀島の農業体験農園・百姓園にて～

今年の4月から志賀島の勝馬で農業体験農園を楽しんでいます。

農業体験農園とは、農園主の農地で指導を受けながら野菜づくりを行うものです。

私が参加した体験農園・百姓園では、約50区画、一人当たり5坪程度の畑を10畝に分け、農園主が用意する苗の定植、あるいは種蒔きをします。こちらで何を栽培しようかと考えなくても栽培する野菜は決められており、素人には非常に楽なシステムです。

野菜づくりは、4月～9月までの前期と10月～3月までの後期の2期に分かれています。前期ではトマト、トウモロコシ、ミニカボチャ、キュウリ、ゴボウ、黄ウリ、サンチュ、大根、落花生、インゲン、枝豆、レタス、白菜、小松菜、ニンジン、ほうれん草、チンゲン菜、茄子ピーマン、パプリカなど21種類、後期は大根、カブ、ブロッコリー、ミニ白菜、カリフラワー、キャベツ、レッドキャベツ、ニンジン、長ネギ、レタスなど10数種類と、年間30種類以上の野菜が収穫できます。

入園当初の自己紹介のときに、予め決められた野菜を栽培するというシステムを理解していなかったため、図々しくも「空芯菜」を植えてみたいとお願いしました。農園主は少し困ったふうな顔をされましたが、心よく、余り地3坪程度を提供してくれました。



9月初旬の空芯菜畑
収穫すれど消費が追いつかない空芯菜

5月末に種を蒔き、1週間に1度だけの水やりと雑草取り程度で順調に生育し、7月の中旬頃には少しづつ収穫できるようになりました。

●成長力、栄養価の高い空芯菜

空芯菜は、土の上から10㎝程度のところからカットして収穫するのですが、カットしたところから茎を出し始め、また葉を付けます。

全くの無農薬でしたが、虫もつかず、元気に発育しました。空芯菜は、カットすれどカットすれど3ヶ月近くは、葉をつける偉大なる野菜です。

8月以降は、収穫しても夫婦2人では消費できず、他の農園の人にも収穫してもらうよう呼びかけました。しかし、空芯菜に馴染みがないせいか、あるいは遠慮されたのか、あまり収穫する人はいなく、我が家で消費できない分は知人に配りまくりました。

空芯菜は、栄養価も高く、ほうれん草に比べてカルシウム4倍、ビタミンA5倍、ビタミンB群2倍と優れものです。

また、幹や葉に水をかけ、冷蔵庫に入れておくと1週間は葉も萎れることなく、保存できます。空芯菜は、葉物が乏しくなる夏場には貴重な野菜です。

最近、農産物直売所やスーパーなどにでは少

しづつ見かけるようになりましたが、まだ、あまり馴染みがない野菜です。もっと日本でも食べられてもよい野菜ではないかと思います。

●油炒めだけでなく、いろいろな調理に使える

毎週、油炒めだけでは飽きてしまうので、我が家ではごま和え、カレーやスムージーの具、厚揚げとの醤油煮、鍋など、色々なパターンで食してみました。一般に、ほうれん草を材料として作る料理には、だいたい合うようです。特にウーロン茶鍋（土鍋でウーロン茶をつくり、葉を取る。これをスープにしてバラ肉、空芯菜、大根や人参なども入れた常夜鍋風の鍋）は、ウーロン茶と空芯菜の香りがマッチし、非常に美味しくいただけます。

9月いっぱいは、空芯菜は収穫できそうで、あと1月足らず、我が家では最後の空芯菜を楽しむことができそうです。

（山田　龍雄）

■今年はトマトが豊作でした

昨年は、佐賀市富士町で開催された親農塾に参加し、地元農家である木下さんから土作りの大切さや作物を育てる苦労、喜びを教えていただきました（親農塾の詳細については、107号をご覧下さい）。今年は、それを活かして何か作ろうと思い、実家の庭の一部を畑にしました。

といっても、栄養がほとんどなく、「運動場の土だね」と称された畑。まずは、土作りということで、色々と肥料を入れるところからはじめました。何を、どこまで入れたらよいのか、全くの手探りです。見よう見まねで思い出しながらやってみました。それから、近くのホームセンターで、昨年の経験から育てやすいと思ったトマトとナスの苗を購入。早速、植えてみました。

その結果、今年は暑かったのが良かったのでしょうか、トマトが大豊作。味も形も満足いくものが出来上がりました。一方、ナスは失敗。今、畑では青梗菜とにんじんを植えています。早速、芽が出ているようで、さてさて上手く育つか、今から楽しみです。

（山﨑　裕行）



ミニトマトと普通のトマト　100個以上は収穫

編集後記

■編集作業が遅れ、皆様のお手元に届くのが遅くなりました。すみません。防災の仕事に関わらせてもらって、最近は天気予報をよく見るようになりました。雨の降り方で色々な表現があります。結構、面白いです。（裕）

■地域の住民による災害時の自助・共助の避難活動の仕組みを作るためのワークショップに最近関わり始めた。同じ町内に住んでいても、誰が住んでいるのか知らないという地区もあれば、旧知の間柄という人達もいる。居住年数によって住民のコミュニケーション度合いは随分と違うものだと感じている。いずれにしても、高齢社会で共助により命を守るためには、普段からのコミュニケーションがベースにないと、難しいと痛感しているこの頃です。（べ）

よかネット　No. 112　2013.10
（編集・発行）
㈱よかネット
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3番8号
福岡パールビル8階
TEL 092-283-2121　FAX 092-283-2128
http://www.yokanet.com
mail:info@yokanet.com
（ネットワーク会社）
㈱地域計画建築研究所
本社　京都事務所　TEL 075-221-5132
大阪事務所　TEL 06-6942-5732
東京事務所　TEL 042-501-2531
名古屋事務所　TEL 052-202-1411
㈱地域計画・名古屋